



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

武蔵野小だより



マスクをつけながらの1年、みんなよくがんばりましたね。

令和3年3月1日発行

自分のよさを発揮できる人に

明日のお話集会では、イソップ童話「うさぎとかめ」の話をする予定です。

かめが、ゆっくりゆっくり道を歩いていました。それを見ていたのは、うさぎ。
「かめ君、かめ君、君は本当に遅いねえ。それじゃあ、家に着く前に日が暮れちゃうよ。」

「僕だって、いざとなれば速く走れるぞ。向こうの丘まで競走しよう。」
丘の上を目指して、よーい、どん。うさぎは、びよんびよん森を過ぎ、野原を横切って走りました。かめの姿は見えません。

「だいたい、かめ君が勝てるはずないのさ。どれ、ここでひと休みしよう。」
うさぎは木に寄りかかってそのまま眠ってしまいました。ずいぶんと時間がたってから、かめはうさぎの所まで来ました。寝ているうさぎを見て、言いました。

「お先に失礼。」

こうして、うさぎはかめに負けたのです。



武蔵野小の「ダイフク」



リクガメ

このお話から、私たちは、うさぎのような油断は失敗のもとで、かめのように着実に前に進むことが大切だと学びます。これを難しい言葉で「教訓」と言います。でも、実は国が変わると、その「教訓」が違うものになることがあるのです。ある国では、眠りこんだうさぎを見て見ぬふりをしたかめは、「するい」「卑怯者だ」とされるそうです。また、別の国では、かめは自分の代わりにそっくりの弟をゴール近くにいさせ、うさぎは絶対に勝てないという結末になっています。そこから意味のない争いはしないで仲良くしようと。1つのお話のもとでも、感じ方は人それぞれです。自分の心で感じ取った教訓、それを生活で生かすことが大切です。

子どもたちが成人する時代のグローバル化や価値観の多様化は想像もできないほどです。激変する社会の中で見えにくくなるものの1つに「自分自身のこと」があるように思われます。だからこそ、小学生の段階から自らのよさや長所を知ることが有意義であり、子どもたちには少しずつではあってもそれらを心に刻んでほしいと思っています。

あわせて、「うさぎとかめ」の例のように、自分では気づかない見方や異なる考え方も視野に入れながら、じっくりと自分なりの考えを深めてほしいとも考えます。時間をかけて「自分のよさ」を耕し続け、将来それを存分に発揮できる人に成長してほしい、心からそう願っています。

来る3月24日には、立派に成長した121名の6年生が武蔵野小学校を巣立っていかれます。本校の新しい歴史をつくってくれた卒業生の皆さんが、ふるさとの川越・武蔵野をこれからも大切に思ってくれること、そして、世界も視野に一人一人が自分の夢に向かって進んでいかれることを念願しています。

結びに、地域や保護者の皆様には、数多くのあたたかいご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。特に、子どもたちの登下校については、スクールガードリーダー様や交通指導員様、朝の交通見守りボランティアの皆様や各自治会の皆様方に今年度もたくさんのご協力をいただきました。この機会に改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす